

ネパールにおける山岳土木工事への貢献と技能実習生の受け入れ

志鷹 新樹(丸新志鷹建設株式会社 代表取締役社長)

丸新志鷹建設株式会社は、1992年にネパールの首都カトマンズに支店を開設しました。それから24年の年月が流れ、漸く国際入札にも参加できるようになりました。その間、国政は王制から共和制に変わり憲法の制定などの問題とともに、大地震など多くの課題を抱えながらの企業運営でした。

① 国際交流からの始まり

立山の麓にある芦峠寺とエベレストの麓のクムジュンは、山岳ガイドの村として栄えていました。1970年に三浦雄一郎氏がエベレスト大滑降を敢行した時、芦峠寺の登山家佐伯富男氏がサポートすることとなり、その時のシェルパとの親交がきっかけで、1991年に立山芦峠小学校とヒラリー卿が建設したクムジュンスクールが姉妹校の調印をしました。両校の交流と並行して、弊社がネパール人研修生の受け入れやネパール支店を開設しました。

② 工事の変遷

初めて国際入札に参加したのは2004年でした。落札したのは、首都カトマンズにメラムチ川から飲料水を送水するためのアクセスロードの建設工事でした。契約は、2005年2月1日の国王によるクーデターのため、2008年4月まで3年以上も延期されました。その後も地権者の同意の取り付け、マオイストの妨害などに合い18ヶ月の工期が6年5ヶ月かかりました。しかし、粘り強く工事を完成させたことが評価され、その後の工事受注につながりました。JICAの工事も学校支援プロジェクトから始まり、小水力発電所工事やネパール大地震後の復旧プロジェクトにも参加しています。

一方、ブータン王国においても、メラムチ・アクセスロードの実績を基に国道の入札参加が与えられ、2012年から2014年まで3件の道路工事を32ヶ月で施工することが出来ました。

③ 今後の展開

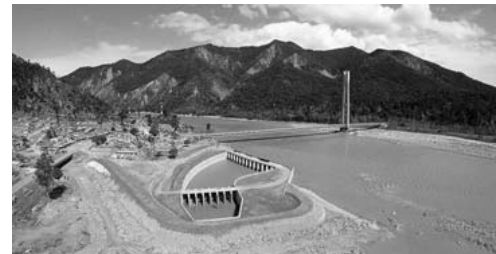
今は、新型コロナウイルスの影響で人の行き来もままならない状況です。また、現地のゼネコンも技術力が向上してきているので、海外工事の受注は控えています。しかし、日本企業からの問合せもあり現地調査などはしています。日本の技術力が必要なものについては助言をするようになってきました。また、今までの付合いを縁に、人手不足の日本で研修生が働いてもらえるような環境づくりを目指してします。



立山芦峠小学校とクムジュンスクールの交流



ネパール研修生の受け入れ



カルナリ河灌漑用水取水口工事



メラムチ・アクセスロード工事



JICA 西ネパール小水力発電所取水口工事